ミカドの「姫路黒桟革」財布

ハイエンドなユーザーに贈る日本特有の美を備えたウォレット

《意外に知らない贈り物の意味》という雑誌の記事を見て、銀座に足を伸ばしたのは、夫の誕生日にその贈り物がどこか相応しく感じられたから。結婚して40年。ちょっと笑ってしまったけど、財布は常に持ち歩くため「いつでも側にいたい」と伝えるものらしい。来春は定年退職、それこそいつも側にいなければならない。

そして、デパートの一角で目に留まったのが「MIKADO」というブランドの逸品。女性店員に話を聞くと、90年の歴史を誇り、職人の手仕事にこだわる皮革製品の老舗「守屋」のオリジナルブランドで、日本の「巧」「技」「極」をコンセプトに上質のレザー商品を提供しているという。たしかにどれも気品に満ちて、佇まいも優雅。なかでもこれらの品々は「姫路黒桟革（くろざんがわ）シリーズ」と銘打ち、春の発売以来、ベルトや名刺入を含め、話題を集めているそうだ。

初めて聞く「黒桟革」。説明によれば、日本の伝統技法である「なめしの技術」と「漆塗りの技術」を融合させた天然皮革の芸術品と称えられる優れものらしい。流通量も少なく、商業ベースで生産する唯一の職人がつくるのは月に20枚ほど。手に取ると予想以上に滑らかながら、摩擦に強く丈夫であるため、今は剣道の防具に使われ、戦国時代は甲冑に用いられたという。

ダイヤの粒をちりばめたような、美しいその表面は、事実「『革の黒ダイヤ』と呼ばれることもあるみたいですよ」と笑顔の店員さん。彼女の説明によると、職人が精魂傾けるその工程は、丹念になめした黒毛和牛の革に、植物の渋だけでなく、液状の鉄も浸透させる技法が使われるとのこと。二つの化学反応によって茶色の牛革を黒く変化させるのだ。そして、熟達の技による漆塗りと乾燥を幾度も繰り返すことで、黒が漆黒になり艶の深みも増してくるという。

「ラッピングをされますか?」と訊ねられ、五円玉を渡して「それを入れてからね」とお願いする。お金とのご縁を祈ったわけではない。口には出せないけど、そっと願ったのは――あなたとのご縁が末永く続きますように。

黒×赤の配色が潔く
醸されるその高貴なイメージ

奥／ MK-533017 束入 35,640円。
中／ MK-518017 小銭入 19,440円。
手前／ MK-530017 札入 32,400円。
＊税込。

写真＝山口卓也

商品に関するお問い合わせ
株式会社 守屋
03-3866-0001（10:00〜17:30　土・日・祝日休み）
www.moriya-japan.com